

越境地域政策研究拠点の運営体制



- ### ●共同利用・共同研究拠点

共同利用・共同研究拠点とは、個々の大学の枠を越えて大型の研究設備や大量の資料・データ等を、全国の研究者が共同で利用し、共同研究を行う拠点です。

●越境地域政策研究拠点の形成

三遠南信地域連携研究センターは、これまで愛知県・静岡県・長野県の県境地域である三遠南信地域を対象に、「グローバルな視点に立った『地域づくり』トータルシステム」(文部科学省 私立大学学術研究高度化推進事業(2005～2010年))および「三遠南信地域における『地域連携型GIS』の研究」(文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(2010～2013年))などの研究プロジェクトを推進・実施してきました。こうした研究蓄積に基づき、2013年4月からは文部科学省共同利用・共同研究拠点事業における「越境地域政策研究拠点」として6年間の認定を受け、国内外の越境地域における地域政策研究機関

研究者等との一般共同研究、地域間交流研究、越境地域基盤研究を行いながら、越境地域政策研究拠点の形成を目指しています。

●公募研究（共同研究）

【一般共同研究】全国の研究者を対象に、特定の越境地域において、以下の越境地域政策に関する研究課題（課題研究、自由研究）を実施しています。

- ・課題研究／ 1. 越境地域のガバナンス形成、 2. 越境地域のリスク管理、 3. 越境地域の産業経済連携、 4. 越境地域の生活環境形成、 5. 越境地域の情報基盤整備

- ・自由研究／越境地域政策に関する研究課題を設定

【地域間交流研究】越境地域政策研究の基盤づくりを目的として、特定の越境地域（国内・国外）における産・官・学の研究者や行政関係者によるシンポジウム・研究会等の研究交流事業を実施しています。